

# SRID NEWSLETTER

*No. 313 DECEMBER 2001* 国際開発研究者協会 創設者 大来佐武郎  
〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

1 2 月号 内容

2003 年の登頂をみざして  
チベット系の人々の広がり

国際開発センター 顧問 高瀬国雄  
ハーバード大学植物学教授 有原元博

お知らせ

1. 新入会員

古田 尚也さん 株式会社 三菱総合研究所

2. 新年会 2002 年 1 月 10 日 (木) 午後 6 時 30 分より

如水会館 3 階 桜の間にて

ご出欠のお返事を 12 月 25 日 (火) までに事務局にご連絡ください。

3. 懇談会 2002 年 1 月 21 日 (月) JBIC 開発金融研究所にて

講師 日本赤十字九州看護大学 喜多悦子 教授

4. 第 2 回シンポジウム 2 月 23 日 (土) 一橋大学学術総合センターにて

5. 会員住所録を改定いたしました。

訂正のある方は事務局 03 - 5226 - 0620 にご連絡下さい。

## 2003年の登頂を目ざして

国際開発センター 顧問 高瀬 国雄

1986年にアジア開発銀行を60才で定年退職、直後に入職した国際開発センター（IDC J）の理事として任期15年を終えた本年10月から、引き続き「顧問」としてIDC Jに勤務している。悠々自適の境地にはとても到達できそうにない私の性格と、それを逆手にとって、せっかくここまで蓄積させていただいた国際経験（世界63カ国、海外滞在21年間）を、墓場に持ち込むことの愚かさを思い合わせ、とりあえず「木曜定休の準常勤生活」を、IDC Jで続けることになったしだいである。1946年京大農学部入学に始まった私の55年の職業生活は、次の3段階に大別できる。

第1期 1946～66の20年、日本食料自給を目標とした農林省、愛知用水公団時代

第2期 1967～86の20年、アジア食料自給を目標としたADB、OECD時代

第3期 1986～01の15年、世界の食料・貧困・環境のトリレンマに挑戦したIDC J時代

このうち、第3期のみが目標未達成である。あと何年間、元気でいられるかは分からないが、とりあず、第3回アフリカ開発東京会議（TICADⅢ）と、第3回世界水フォーラム京都会議の開催される2003年を目標として、その登頂に渾身の努力を傾けたいと願う。

### 1、「貧富格差是正」こそ、人類の最終目標

1960年代独立後のアフリカ50数カ国に対する30年間の欧米ドナー援助が、東西冷戦終結により東欧・旧ソ連へとシフトされた後、日本が主要ドナーを引き受けた。それが1993年の第1回TICAD、1998年の第2回TICADであった。そして、第3回TICADの2003年10月開催を目ざして、2001年12月3、4日にその閣僚会議が東京で開かれ、私も出席した。

9月11日のアメリカ・テロ事件にもかかわらず、アフリカ52カ国の閣僚、アジア9途上国、17ドナー国、37国際機関、3NGOなどから、日本人を含め1000人に近い大会議を赤坂プリンスホテルで開いた日本政府の決断を、参加者はこぞって賞賛した。ところが、最終全体決議の文面案が「テロと貧困」をリンクしていたことに、ジンバブエ、セネガル、コンゴ、ガボンなどが異議を唱えた。「この2者はイコールでない」という合意が得られたことは、大きな収穫だったと私は思う。

ノーベル経済学賞のセン教授は、2001年11月2日号朝日新聞で、次のような対話を行っている。「テロの原因に貧困をあげる声があります。」「ビンラディンら突き動かしているのは貧困ではない。彼らは裕福だし、アルカイダのテロ活動はグローバル資本主義の中にあるといってもいい。カネを稼ぎ、それを

こうした目的に使う。」「だが、二つの点で貧困が絡む。まず、命を投げ出そうというテロ志願者の多くは、世界の不公平に反発しており、貧困は不公平の最も大きな問題だ。第2に数千人の殺害といった野蛮な行いは、道徳面で正当化する必要がある。『不公平に反対して戦っている』と自分を正当化するわけだ。」世銀やADBのいう「貧困削減」ではなく、「貧富格差是正」こそが、テロを克服する開発の原点であり、人類の最終目標であるという、私のここ数年来の主張が裏づけられたわけだ。

## 2、農民の自主管理なしに、世界の水問題は解決しない

1970年以降、国際社会の環境問題への関心が高まり、1977年国連で初めての水会議が開催された。90年代には、頻発する旱魃や砂漠化、大水害、水質汚染などに対抗するため、1997年にモロッコで第1回世界水フォーラム、2000年にオランダで第2回、そして第3回が2003年3月に日本で開催されようとしている。その運営委員会長には橋本龍太郎氏が就任し、政府・民間有識者の共同組織で、諸般の準備が進められている。

2001年2～4月にかけて、国際開発銀行(JBIC)の委託で、1980年代にOECFが融資した8灌漑事業の再評価を行った私は、次のような結論を得た。世界の水利用の7割を占める農業用水の効率化は、現在の途上国の政府依存形態を、日本の土地改良法に見られるような農民の自主管理に変革することなしには困難であろう。21世紀の水問題解決を目指す世界水フォーラムの成否は、2003年までに、この趣旨をいかに徹底し、実行させるかにかかっている。

## 3、わが生涯、最忙の秋

この9月のテロ事件から、私の国際開発活動はむしろ忙しくなった。9月下旬台湾大学での途上国灌漑シンポ、10月下旬～11月アメリカでの国際肥料開発センター理事会、世界銀行国際農業研究センター会議には、テロのおかげで乗機率30%の殿様旅行をエンジョイできた。11月21日、京都国際高研での世界食料・環境研究最終会議、11月27～28日筑波JIRCAの水シンポ、11月30日～12月2日広島での国際開発学会、12月3～4日東京TICAD閣僚会議、12月7～8日名古屋大学農業国際教育協力研究センターシンポと、いずれもよく準備された世界最高頭脳の新蓄積を堪能させてもらった。

家庭的には夫婦とも健康、3人の息子家族はそれぞれ21世紀社会の中堅として、また7人の孫も大学院を筆頭に小学1年生まで、グローバル舞台に成長しつつある。2003年には、私たちも結婚50周年(金婚)を迎える。その日が真にgoldenの輝きを放つかどうかは、2年先の私の登頂の成否にかかっている。最忙の秋のひと時、わが生涯の行き先を、はるかに思う。

(2001年12月10日記)

## チベット系の人々の広がり

ハーバード大学植物学教授 有原元博

ブータンの住民の大多数はチベット系の人々である。チベット系の人々の居住する空間は広大である。その空間は西はインド東北部、東は四川省西部、北は甘粛省西部、南はブータン・シッキム・ネパールにわたる。ここには南アジアから東南アジア・東アジアにかけての大地を貫流する大河の源流がほとんど集まっている。氷河の融水やわき水をあわせた流れは、黄河や揚子江、メナム、メコン、ガンジス、インダスなどの大河となって大地をうるおす。

この空間は、世界でもまれな高地から構成されている。チベット高原自体が四千米をこえる標高にあるだけでなく、ヒマラヤ、タングラ、崑崙、キレンなどの大山脈が東西に伸びている。チベットの空や湖は、純度のたかい青色の色相をあたり一面にまきひろげている。豪華としか言いようのない風景である。

チベット系の人々の広がった空間は、こうした世界である。

チベット語の方言は、六つのグループに大別されている。

- 一、西部古方言 パキスタンのバルティスタン地方からインドのジャンム・カシミール州のラダク地方に分布
- 二、西部改新的方言 インドのヒマチャル・ブラデシュ州ラフル・スピティ地方からウツタル・ブラデシ州ガルワル地方に分布
- 三、中央方言 中国チベット自治区とネパールの大部分の地方に分布
- 四、南部方言 インドのシッキム州からチベット自治区亜東県、ブータンにかけて分布
- 五、カム方言 チベット自治区のチャムド地区、ナクチュ地区、ラサ地区のニンティ県、ンガリ地区の一部、四川省カンツェチベット族自治州、雲南テツェンチベット族自治州、青海省ユーシューチベット族自治州に分布
- 六、アムド方言 甘粛省、青海省の各チベット族自治州、四川省アパチベット族自治州の一部に分布

小生が片言覚えたゾンカ語は、チベット語南部方言に属するわけである。ゾンカ語は17世紀以来ンガロン諸方言を母体にブータンの公用語・共通語として発達してきた言語といわれている。

チベット系の人々のブータンへの流入は、何波にもわたって行われてきたと言う歴史がある。近年はネパール人の移入が行われてきた。来年春から半年にわたってネパール王国ポカラをベースにアンナプルナヒマールの植生調査を同国王室植物園と共同で実施する予定であるが、ムスタン地方はネパールの秘境であり小生のゾンカ語がどれほど通用するか？今から楽しみである。